



PREX NOW

No. 157

September
2006

財団法人 太平洋人材交流センター
Pacific Resource Exchange Center

contents

- page 1 ●ニュース&レポート 1
大阪とタイを結んだ遠隔セミナーを実施
- page 2 ●ニュース&レポート 2
一村一品に特化した初めてのセミナーを
大分県で実施
- page 3 ●ニュース&レポート 3
国際協力銀行の円借款を利用した西安市・
京都市の協力事業 ～西安市上下水道研修～
- page 4 ●ニュース&レポート 4
PREXの研修カリキュラムで
関西の特色をアピール
～「関西プログラム」の組み込みを導入して～
- page 5 ●ひとこと
JICAのインドネシアでの
技術協力プロジェクトに参加して
元JICA専門家 甲村 昌二氏
- page 6 ●PREXだより
事務局ニュース、コラム



われわれの使命は、
常に開発途上国にとって
有益な存在であり続けることです。



ニュース&レポート ①

News & Report

大阪とタイを結んだ遠隔セミナーを実施 [2006年度アセアン海外研修]

PREXは海外技術者研修協会(AOTS)の補助金制度を利用し、関西経済連合会(関経連)のサポートをうけながら、今回、大阪とタイ国のバンコク、チェンマイの3箇所をTV会議システムで結び、3日間の日程で海外遠隔研修を実施した。テーマは輸出商品のマーケティング戦略で2都市あわせて66名が参加する盛況ぶりとなった。



AOTSバンコク事務所 貞谷所長による修了書の授与式。

修了式を終えて、仲間意識の高まった研修参加者全員のグループショット。チェンマイ会場にて。



本研修はタイ国内の中小・零細企業の発展を目指すタイ工業省の要望をうけて実施されたもので、中小・零細企業のより一層の商品力、技術力を高めるために、最もむずかしいとされる日本市場への輸出を前提に、マーケティング戦略の考え方、策定方法を研修、グループ討議では活発な意見で盛り上がった。

チェンマイに到着するやいなや、雨季の大雨。市内を流れる川も増水で巷の洪水騒ぎで慌しいなか、準備が始まる。会場はAOTSバンコク事務所、チェンマイではタイ工業省ブランチのIPC研修センターを利用させて頂いた。

今回、タイ工業省も力をいれている業種であるファッション、食品、ハンディクラフトに的を絞り、チェンマイ、バンコクから合計6商品を事例にとりあげ、日本市場への輸出戦略を考えるカルキュラムとした。講義では日本経済、社会の最新の動向を学び、マーケティング戦略の策定、事例をもとにグループ討議を行った。各事例の輸出戦略を通じて日本市場の特性を理解するとともにマーケティングスキルを向上させる狙いは十分に達成できたと胸を撫で下ろしている。

ケーススタディでは6商品6グループにてコーディネーターにバンコクはタイ輸出振興局パタイ氏、チェンマイではJETROバンコクアドバイザーの矢島氏を配し、討議を進めてもらう。チェンマイではファッション分野でタイシルク製のスカーフ、ショールを事例とし、セールスポイントであるシルクをいかに日本消費者にアピールするか、食品ではカレーのレトルト食品をとりあげ、いかにターゲット顧客となるタイフード愛好家にチェンマイ独特の辛さをアピールするか、ハンディクラフトではペーパークラフト製品のアルバム、メモの材料となっているタイ風和紙の高級感をいかにだすかと活発な論議がおこなわれ、翌日のプレゼン発表では質問が相次ぎ、時間オーバーとなる程で参加者の興味の深さを感じ取れた。

研修参加者からはマーケティング手法が学べた、日本人消費者の特性が理解できた、日本市場へのアクセス情報を入手できた、是非次回も企画してほしいとの好意的な意見が多く出された。一方、研修員達はマーケティングスキル向上を飛ばしてでもビジネスマッチング情報を求めるところがあり、今回講師からは日本市場参入の各種web情報も提供して頂いたが、今後に向けてより工夫を重ねたい。

最後に研修の実施にあたってはタイ工業省から人的、物的両面にわたる多大なサポートを頂いた。これが今回の成功のキーであったと実感している。改めて感謝を申し上げます。

—国際交流部 担当部長 深田 進

アセアン海外研修

- ◎実施期間 8/1～3
- ◎研修参加者 タイの企業経営者、経営幹部 66名
- ◎関係機関 海外技術者研修協会(AOTS)、
関西経済連合会
- ◎テ - マ 輸出商品のマーケティング

お世話になった方々、企業・団体他

(講義・訪問順・敬称略)

滋賀大学 小田野教授、JMコンサルティング 松永氏、オ
フィスゼータ 弓場氏、ヒューテック 西氏、ギフコ 南川氏、
タイ国商務省 パタイ氏、JETROバンコク支店 矢嶋氏、
タイ国工業省、関経連、AOTS、その他現地企業



一村一品に特化した初めてのセミナーを大分県で実施

【中国山東省一村一品研修】

7月27日より8月8日まで、山東省発展和改革委員会の委託により、山東省内の県、市、区の責任者と発展和改革委員会の幹部15名を対象とした山東省一村一品研修を実施した。一村一品運動に特化した内容の研修はPREXとして初めての実施であった。PREXは山東省人事庁からの委託で、今年も含め3年間の人事管理研修を実施しているが、昨年10月に酒井が関西財界山東省訪問団に参加して山東省へ赴いた際、人事庁より発展和改革委員会の担当者を紹介され、一村一品運動についての研修を実施してほしいとの要請を受けたことが発端で実施することとなった。一村一品運動発祥の地、大分県での研修を中心に実施した。

山東省は工業も盛んであるが、農業生産の拠点でもある。発展和改革委員会は、省内の産業政策を立案する行政部門であり、目下農村振興が大きな課題になっている。発展和改革委員会の担当者が、一村一品運動が日本で成功しているとの情報を得て、農村振興の参考に、日本の取り組みを学びたいとの意向であった。

一村一品運動は、大分県元知事の平松守彦氏が提唱され、大分県内にとどまらず、全国で展開されている。今回大分県での研修実施にあたり、平松氏が理事長を務める大分一村一品国際交流推進協会にご協力を御願した。同協会は中国からも数多くの視察団を受け入れた経験があり、一村一品運動は、上海では一廠一品運動・一街一品運動、武漢では一村一宝運動、江蘇省では一郷一品・一鎮一品運動として展開されているとのことであった。

今回の研修参加者には大変ありがたいことに、平松理事長から直々に一村一品運動の背景や理念、展開されている活動、中国とのかかわりなどご紹介いただくことができた。ご講義は情熱に溢れ、わかりやすく、研修参加者は一様に大変勉強になったと話していた。中国語に翻訳されたご著書に一人ずつサインをして恵贈されたことは、非常に光栄でありありがたいことであった。

大分県内では、カボス農家・きのこセンター、農村女性グループが起業したかりん



平松元大分県知事と



和歌山県庁表敬訪問



畦道グループ食品加工組合



血の池地獄で足湯

どう工場、地域の農民が持ち寄る野菜や加工食品を販売する農協のマーケット等を訪問し、湯布院町の町づくりについての講義を拝聴した。農産物は中国にもあるものが多く、品質の高さ(そして値段の高さ)に注目していた。また、パッケージも個性的なものが多く、包装の大切さも勉強することができた。安心院では、役場の方からグリーンツーリズムの取り組みについて紹介をいただき、安心院の農家のお宅へ3グループに分かれて宿泊した。都会ではぜったいにありえない大きな日本家屋でご家族と交流することもでき、自宅・ご近所でとれた新鮮な野菜や魚を使った手料理をいただいた。お風呂は近所の公衆温泉に入り、畳の上にお布団を敷いて眠るという日本ならではの体験もできた。研修参加者には一生忘れられない思い出になっただろう。

大分へは神戸港からフェリーでのんびりとした船旅であった。別府観光では、休日にもかかわらず、別府市役所観光経済部の平野次長と、わらべ代表の日高さんに、地獄めぐりとゆうぐれ散歩という船から別府をみるクルージングにご案内いただいた。地獄めぐりは炎天下で本当に地獄のようだったが、血の池地獄で足湯をご案内いただき、楽しむことができた。クルージングはわらべが企画されており、一般市民の方も参加していた。別府市は観光客を呼び込むために大変な努力をされており、特に

東渡扶桑到大分
一村一品恵国民
経済発展人材出
学習借鑑共前進

日本の大分県にやってきて一村一品が国民の利益になることを知りました。経済発展のために人材を育成し、学び参考にし共に前進しましょう

研修参加者からいただいた詩
徳州市発展和改革委員会
副主任 靳宏偉さん

中国・韓国の方の誘致に力を入れておられるとのことであった。行政と民間が協力して観光振興に力を入れておられることがよくわかった。

研修参加者は友好都市である和歌山県を訪問し、和歌山県の農業政策についてご紹介いただくことができた。山東省からの委託を受けて実施する研修で、和歌山県にお伺いしたのははじめてであり、研修参加者も訪問できたことを非常に喜んでいました。

PREXで実施する研修は、通常関西を中心として実施するが、今回は大分県を中心として実施した研修であり、他の研修とは違うさまざまな出会いや体験ができた。研修参加者が帰国後各自自治体において研修で学んだ成果を活かし、地域経済活性化に役立てられることを願う。

—国際交流部 主事 酒井明子

中国山東省一村一品研修

- ◎実施期間 7/27～8/8
- ◎研修参加者 山東省行政部門の責任者等 15名
- ◎委託元機関 山東省発展和改革委員会
- ◎内容 日本における一村一品運動について学ぶ

お世話になった方々、企業・団体他

(講義・訪問順・敬称略)

神戸大学 石原享一教授、近畿経済産業局、川崎かぼす農園、畦道グループ食品加工組合、アンテナショップ一番列車、立命館アジア太平洋大学、宇佐市役所、湯布観光総合事務所、由布市議会議員 小林華弥子氏、キノコセンター、フローラセンター、百年之家ときえだ、星ふる高台の家、桃源郷こびら、バナニックセンター



国際協力銀行の円借款を利用した西安市・京都市の協力事業 ～西安市上下水道研修～ [西安市高級管理者研修]

PREXは、このたび京都市の要請を受け、京都市の友好都市である西安市の上下水道環境改善のために、2006年度から3年間4回に亘って70名の研修参加者を受け入れ、研修を実施することとなった。本研修実施にいたるまでの経緯、研修の概要、6月に行った事前出張について紹介する。

2005年8月に国際協力銀行(JBIC)と京都市の職員が西安市を訪問し、2004年度円借款対象事業である標記事業につき、西安市事業関係者の日本研修受入に関する協議を行い、京都市側は標記事業の成功のために貢献したい旨表明した。その後、京都市の依頼により、当財団が、水道関連コンサルタント会社である株式会社日水コンと協力して研修実施を担当することとなった。当財団は、京都市と西安市の今回の事業にかかわる覚書をもとに、西安市側の窓口である西安市発展改革委員会と研修実施にかかわる契約書を締結した。

当事業は、今年度8月と10月に市の行政トップクラスと関連部局の責任者を対象とした管理研修と、来年度・再来年度に一度ずつ技術者を対象とした技術研修を行うものであり、当財団としては初めてのJBIC円借款事業、初めての水環境関連の研修事業である。

契約に先だち、京都市上下水道局の佐藤部長、総務局国際化推進室の村田課長、日水コン海外業務部の桜井部長と当財団尾上部長と酒井の5名で、6月に現地へ打ち合わせと調査をかねて出張した。西安へは、ほぼ10年ぶりであったが、街の発展の様子には驚いた。短期間の滞在であったので、じっくりと街を見学することはできなかったが、10年前に比べると非常に明るく、緑の多い活気のある様子であった。

建設中の円借款第三污水处理場下水管工事現場を視察したが、完成の前から円借款を利用して建設された処理場であることを示す金色のプレートが準備されており、建設開始にあたっては、マスメディアで広く広報したとのことであった。中国で

は日本の援助があまり一般市民に知られていないことが課題として指摘されているが、徐々に配慮を示すようになってきている。西安側の窓口も非常に熱心で有能な方であり、限られた時間の中、一行が十分に視察できるよう配慮をいただいた。

西安は、黒河という質の良い水(山水)に恵まれている。排水は渭河に流す。やがてそれは黄河に流れ、河南省の人の飲料水となる。上流にあたる西安には、河南省の人々に対してきれいな水を排水する責任がある。まだまだ未処理水をそのまま河に流しているところもあり、水環境整備の緊急性は高い。設備は日本とそれほど大きな差はないようであるが、問題はハードを動かすソフトである。佐藤部長によると、電気、機械、設備の専門家を集めても、きれいな水にできないことがあるとのこと。いかに専門家の間の垣根を取り除くかが重要で、若い世代に技術を伝承していく必要があるのは、京都市も西安市も同様であるとのことであった。

余談になるが、皆さんは、下水の汚泥がどのように処理されているかご存知だろうか。多くは脱水後埋立て処分あるいは焼却処分されるが、京都市では環境を

守るためにと灰を混ぜてレンガを作ったり、完全に溶融して石にしたりしているそうである。レンガは歩道に使い、石は「都石」というブランドで建材としてリサイクルされている。

今回の研修により、京都市と西安市の間の友好交流がますます促進されることと、西安市の水環境整備がより効果的に行われることを心より願う。

—国際交流部 主事 酒井明子

西安市水環境整備事業 第一期高級管理者研修コース

- ◎実施期間 8/22～9/6 16日間
- ◎研修参加者 西安市の事業担当部署の責任者等 20名
- ◎目的 日本の水環境整備(特に下水処理)について理解する。
- ◎委託元機関 西安市発展改革委員会、京都市、JBIC
- ◎備考 今年度10月には西安市長等12名を対象とした管理研修、来年度・再来年度に1回ずつ技術研修を実施する。

	研修実施時期	日数	参加者
第1期	2006年8/22～9/6	16	20
第2期	2006年10月頃	9	12
第3期	2007年6月頃	16	25
第4期	2008年6月頃	16	15
合計			72



污水处理場工事現場(第三污水处理水廠)でのヒアリング



下水管工事現場視察



西安側との協議の様子



北石橋污水浄化センター視察



PREXの研修カリキュラムで関西の特色をアピール ～「関西プログラム」の組み込みを導入して～

PREXでは3年前より中期アクションプランを策定し、PREXのメイン事業である研修業務における改善・改革、将来に向けての新たな取り組みの開始など、グループごとにアクションプランの推進に取り組んできた。

今回ご紹介するのは、「PREXの研修コースでの国際的人材交流促進のための関西プログラムの充実」というプロジェクトについてである。

このプロジェクトの目的・ねらいは、PREXの設立趣旨、事業目的に沿って関西の国際的人材交流促進のため、関西がもつ特色ある歴史、文化、産業などの資源を研修実施のなかでアピールすることにより、様々な国・地域から来日する研修参加者の関西に対する理解を促進し、関西ファンを増やそうというものだ。

そもそも、なぜこのようなプロジェクトがアクションプランに掲げられたのか。それは関西の特色を研修参加者の皆さんに十分にアピールできていないのではないかと、その当時の研修プログラムのカリキュラム内容や、研修参加者へ関西についてア

ピールするための体制を見直した結果、大きく次のような問題が浮かびあがった。

- 関西の特色をアピールする
“コマ”を組み込んだカリキュラム編成が十分でない。
- カリキュラム編成にあたっての十分な仕組みがない。
- オリエンテーション等での関西の紹介が十分でない。
- 研修参加者に提供する情報が十分に活用されていない。

このように現状を見直すことで、次へのステップ、何をすべきかが見えてきた。そこでとったアクションは：

- すべての研修でオリエンテーション時に関西の特色を紹介する。
- (条件が許す場合は)関西紹介のコマを研修プログラムに予め組み込む。
- 関西の観光スポットなどを盛り込んだ“お勧め訪問先リスト”を作成し、地図等とあわせて研修参加者に配布する。

これらのことを各研修で可能な限り徹底した。

● 実際に関西プログラムの研修カリキュラムへの組み込み導入を開始し、研修参加者から意見・感想を聞いたところ、長い研修期間において関西の名所訪問、文化に触れることはとてもリラックスでき、また、連日の講義や企業訪問の疲れも癒されるとの声が多かった。私たちが考える以上に関西プログラムの効果は大きく、また、思い出深いものであるということを確認できた。

最近の関西プログラムとしての主な訪問先は次の通り。

- 大阪城、二条城、姫路城
- 東大寺、清水寺、金閣寺、竜安寺
- 海遊館、松下歴史館、企業家ミュージアム、ユニバーサルスタジオジャパン(USJ)など

そのほか、絵付けや染物を体験した研修員もいた。

● 今後も研修プログラムへの関西プログラムの組み込みを継続して行っていく。多くの研修参加者に研修以外の生活でも、よい思い出を作ってもらいたいと思うとともに、ひとりでも多くの関西ファン、PREXファンを増やすため、これからは研修生の要望、ニーズを反映した、よりよい研修カリキュラムの作成につとめたい。



2005年度ロシア日本センター訪日研修
…清水寺にて。



2005年度ベトナム日本センタービジネスコース
講師受入研修…松下歴史館にて。



2005年度メキシコ中小企業・地域産業振興政策
コース…姫路城にて。



2005年度メキシコ中小企業・地域産業振興政策
コース…姫路城にて。



2002年度上海市人事労務管理セミナー
…京都友禅染体験の様子



JICAのインドネシアでの 技術協力プロジェクトに参加して

元JICA専門家
甲村 昌二氏

1997年3月から2002年2月迄の5年間は“貿易セクター人材育成計画”プロジェクト、そして2002年7月から2006年6月迄の4年間は“地方貿易研修・振興センター”プロジェクトに長期専門家として加わってきました。

最初はIETC(インドネシア貿易研修センター)に対する運営指導で国内支援機関はPREX(太平洋人材交流センター)との案件でした。3人の長期専門家はそれぞれ異なった家庭／教育／勤務環境から来ており、まず我々3人が話し合いを重ね和を築き、次にカウンターパートであるIETCと共に我々の案をベースにして種々話し合いをして、より良い現実的な方策を見出す努力をしてきました。IETCの所長を含め幹部クラスとは毎週月曜日のミーティングを定例化させて行き、作業工程表や作業マニュアル等を共に作り、研修運営の効率化を図ることにより、研修実施回数が増加し、研修受講生も増加して行き、相手側からの信頼も得られる様になったと思います。又それまで実施されてきた多くの無料の研修を見てみると、受講者に真剣さ／真面目さが欠けていて、一方研修を提供する側も内容に新鮮味が欠けマンネリ化していた為、無料研修を廃止してより良い内容の研修を／良い講師で／タイミング良く有料で提供することを提案しました。これには内外で大きな抵抗がありました、政府機関が実施する研修は無料のモノが多く有料では受講生は集められないとする声、日本政府が援助する機関が金儲けをするのは問題ではないかとする声もありました。しかしニーズに合ったより良い研修をプロフェッショナル・マナーで提供すれば民間企業は必ず認めてくれると説明し、徐々に有料研修を増やして行きました。又IETCが受取る研修受講料はトップの懐に入れるのではなく、安い公務員の給与を補填する意味でスタッフのインセンティブや研修機材の新規購入、諸設備の維持費等に有効活用され、IETC全体が活性化されて行きました。今やほぼ100%が有料研修となり、研修回数も受講者数も大きく増えて行きました。

こうした事々が自立化に向けて成長し、社会に貢献しているとして、2004年10月の「JICA賞」受賞につながって行ったと思います。

最初の案件の後半には、1998年の経済危機以降交通費等の大幅な値上がりもあり地方からの参加者が減少してきたこと、更にスハルト大統領退陣後に地方分権化が大きく前進して行くことが明確になってきたことから、輸出振興サービスも含めた貿易研修センターを地方都市にも開設して行くという新規案件を提案してきて、これが2002年7月からの“地方貿易研修・振興センター”プロジェクトとなりました。これは4つの大きな島々の主要4都市でセンターを開設するという各地方の州政府／NAFED(輸出振興庁)の中央政府／日本政府との3者によるプロジェクトです。3者の主な役割としては 州政府は土地建物／スタッフ／主な事務用品の負担、中央政府は建物の改修費と幹部職員の原則2年間の派遣、日本政府は長期・短期の専門家の派遣と研修機材の提供で地方分権化に則した新しい取り組みでした。地方のニーズに合わせた新しいサービスが提供出来るというアイデアでしたが、実際に動き出すと種々問題も出てきました。大きかったのは各州政府の輸出に対する認識の度合いと協力姿勢の違いでした、指導内容・方法にはそれぞれ異なったやり方が求められました。しかし一方で出来るだけ同じ様な研修を提供して行く努力も必要として、4つのセンターにTV会議システムの機材を導入し遠隔研修にも力を入れてきました、プロジェクト終了直前には大阪—ジャカルター—スラバヤ—メダン—マカッサル—バンジャルマシンの6地点を結んだワークショップを実施出来るまでになりました。

こうしてIETCはPREXの指導・支援の下にジャカルタで成長し、第二ステップとしてその成果を地方都市にも広げて行きました。最近ではJICA本部から南々協力の一環としてインドネシアでの実績をアフリカのケニヤやASEANのラオスでの貿易研修センター設立でIETCから専門家を派遣し、IETCで受入研修を実施してもらえぬかという話も来ていて、第三ステップとしての国際化に向けて進歩・発展しようとしております。

PREXによる今迄のIETCへのご協力で深謝申し上げますと共に、今後の国際的な展開への更なるご指導・ご支援も期待されてくると思われ、引き続き宜しくお願いします。

事務局
ニュース

9月実施の主な研修

■ ベトナム海外研修

◎期間：9/6～13 ◎対象者：企業経営者及びマネージャー(ダナン市、ホーチミン市 各50名)

■ ウズベキスタン日本センター成績優秀者受入研修

◎期間：9/14～10/2 ◎対象者：ウズベキスタン日本センタービジネスコース受講者のうち成績優秀者 3名

■ 山東省人事庁訪日研修

◎期間：9/17～26 ◎対象者：山東省にて行政部門の人材マネジメント、人事管理を担当する行政官 20名

《お詫び》

先月号に記載の三井住友海上火災保険株式会社さまの社名に誤りがございました。心よりお詫び申し上げます。

人の動き

《新任》

稲本 治朗 国際交流部 担当部長 / 2006.7.1付 住友電気工業様より出向



7月1日にPREXの仲間に加えて頂きました。30数年に亘り、非常に限られた分野でしかも、ずっと工場勤務という極めて狭い世界にとっぷり浸かって参りましたが、このたび職種がガラリと変わって、国際交流という視野が広くスケールの大きい仕事をやらせて頂けることになり、私にとって飛躍のチャンスと受け止めております。

海外での業務経験といえば、唯一中国の工場に駐在していた時期がありますが、その時の体験や知識が活かされれば幸いですし、こちらでの研修テーマのひとつに生産性向上に関わるものもありますので、工場で今まで培って来たノウハウが役に立つことが出来れば幸運であると考えております。ただ、そろそろ実務を始めておりますが、そんなに簡単なモノではなく、これまでの勉強不足を反省せざるを得ないお恥ずかしい事態に陥っております。いずれにしても定年が刻一刻と迫って来る今、改めて新鮮な気持ちで新しい仕事に取り組むことが出来るというのは大変有り難いことであり、国際貢献の一端に関与できることを喜びに感じ、少しでも世の中の役に立つよう、一杯「最後の力」を振り絞る所存ですので、皆様のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

《新任》

武居 毅 国際交流部 担当部長 / 2006.7.1付 関西電力様より出向



転勤の辞令を受け、PREXの設立趣旨やこれまでの活動経緯を勉強し、国際協力活動を長年に亘って続けている組織の一員となることに喜びを感じております。途上国への支援も、今後はソフト面での支援を充実していく必要があり、PREXが行っている人材育成への協力がますます重要になってきます。研修件数が年々増えてきているのも、PREXへの期待の高まりの現れだと思えます。

このような時にPREXで働くことになり、身が引き締まる思いです。今までの業務経験は、社内が相手の事務業務が多く、全く新しい領域の仕事に巡り合えたこととなります。国際的な仕事と聞き不安も感じた事もありましたが、PREXに着任して、職員の一人ひとりが海外と日本の交流の窓口との気概と責任感を持って仕事に取り組んでおられるのを見て頼もしく思いました。早く仕事を覚えて、先輩諸氏に追いつくよう努力し、今までの経験も活かしながら、人材育成を通じた国際交流活動に貢献していきたいと考えています。微力ではありますが、一杯頑張っていきますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。

C O L U M N

アジア・コスメの罫。。。。

国際交流部 主任 関野史潮

上海に行くと、お土産を何にするか迷ってしまう。中国といえばお茶。後は月餅みたいな中華菓子か、上海ならシノワiestの小物などが。上海の変化は爆走する機関車どころか疾走するリニアモーターカー並みだが、お土産の種類はそんなに激しく増えたりしない。

そんな私が最近上海で買うのは、ずばり「アジア・コスメ」。実はあまり百貨店、しかも化粧品コーナーで見かけることはない。上海女性で化粧品に凝る人は、輸入ブランド等を買われるのだろうか。百貨店の化粧品コーナーでは、クリニーク、デオール、ランコム等々、日本の百貨店でもおなじみのブランドが勢ぞろい。ちなみに私の友達はSK-IIをご愛用。そんなリッチな人々を尻目に私は薬屋の一角でぼつん、とおかれているアジア・コスメ、中国化粧品をあさるのだ！香料等の好き好きはあると思うがその効果は抜群！（もちろん人によって違います。わたしにはぴったり♪ということでご理解下さい♪）真珠の粉入りクリームや、アイクリーム等、好きなメーカーを選び、模造品をぐぐり抜けホクホク顔で購入。効果もさることながら、その価格もうれしく、日本ではめっちゃ高いアイクリームでも中華製なら900円前後。しかもばっちりきくのです！（ちなみに日本のはアイクリームだと下は4,000円位。上は1万円以上なんてのも）中国出張は大変なことも多く、よれよれになることもあるが、アジア・コスメを楽しみに、今日も仕事にいそしむのでした！



PREXの
研修実績

2006年
7月末現在

PREXは、1990年4月設立以降、開発途上国の人材育成事業と、その活動を通しての国際的人材交流促進に努めています。

●研修累計(1990～)

299コース

●受講者累計(1990～)

107カ国・地域 9,241名

【受入(訪日)研修 2,877名 / 海外研修 6,364名】

●2006年度計画

35コース 846名

【受入研修 27件 / 海外研修 4件 / 交流事業 4件】

●2005年度実績

35カ国・地域 1,167名

【受入研修 25件 / 海外研修 9件 / 交流事業 1件】

編集・発行

財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事 三田 昌孝

〒552-0021 大阪市港区築港2丁目8-24
pia NPO 5階 502号室

TEL 06-4395-2650
FAX 06-4395-2640

ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>
電子メールアドレス: prexmail@prex-hrd.or.jp